

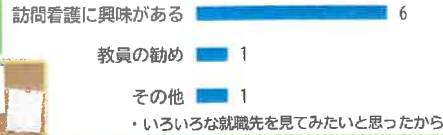


今年はいつまでも寒く、春の訪れが待ち遠しい年でした。新型コロナウイルス感染症が感染拡大と収束を繰り返す中、感染に留意しながら、春休みインターンシップを実施しました。今回の参加者は6名で、県外からの参加もあり、周知されつつあります。インターンシップに参加した皆さんと受入ステーション所長の感想をお届けします。

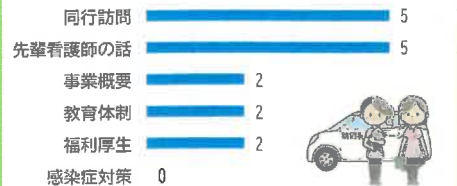
## 1 インターンシップはどこで知りましたか



## 2 参加の動機



## 3 インターンシップのどんなところに興味がありましたか



## 4 インターンシップは満足しましたか



ここが良かった！

- ・同行訪問で多くの話を聞け、質問にも丁寧に答えていただけた。
- ・病院以外で働く看護師の視点や考え方を感ずることができて、これまでの看護に対する考え方が大きく変わった。
- ・実習が学内実習となり、医療現場を見る機会がなかったが、患者さんと直接話ができて、訪問看護の仕事が見学できた。
- ・同行訪問によって、看護師さんのケアの一つ一つに意味があることを近くで見ることができた。
- ・訪問看護について具体が分かった。
- ・訪問看護の雰囲気分りがよかった。

## 5 訪問看護ステーションへの就職について



## 学生の感想

- ・患者さんのご家族やヘルパーさんなどたくさんの方との連携を大切にされていることや看護師は常に病態について考えながらアセスメント、計画をされていることが分かり勉強になった。
- ・学校の授業や学内実習では得られない体験をすることができた。コミュニケーションを通して患者さんの状態や不安を知る大切さを学んだ。利用者が自立度を保ったまま快適に過ごせるように援助する訪問看護に魅力を感じた。
- ・とても優しく丁寧にたくさんの方を教えてくださいありがとうございました。先輩のキャリアラダーを知り、もっといろんなことを勉強・経験して様々な視点を得たいと思った。とても貴重な経験ができた。訪問させていただいた利用者さん、ありがとうございました。
- ・思ったよりいろんなことを考え、先を見据えて行動していると知れてよかった。福利厚生について聞いてよかった。
- ・病院とは違った利用者寄り添った看護をされていることが分かった。将来もし働くなら…とイメージできた。

## 所長の感想

訪問看護の魅力看護学生に伝え興味をもってもらう機会となり、ステーション側もよい経験をさせてもらっている。

## 訪問看護ステーションで活躍するスペシャリストたち

医療依存度の高い利用者さんが在宅療養をされています。令和4年度の診療報酬の改定では、こうした利用者さんに専門性の高い看護師による訪問看護が高く評価され、専門管理加算が新設されました。県内のステーションで、多くのスペシャリスト達が活躍しています。そこで、シリーズで紹介していきます。

### シリーズ第1弾 緩和ケア認定看護師

# 橋本 寿子 さん

勤務先：訪問看護ステーションきぼう  
(広島市安佐南区長束)  
2008年 緩和ケア認定看護師資格取得  
2015年より訪問看護に携わる



### 緩和ケア認定看護師の資格を取得したきっかけはどんなことでしたか。

がん化学療法を受けている50歳代の患者さんから、「なんで尿を量らないといけないの？」と聞かれたことがきっかけでした。「24時間点滴の状態を尿をとって瓶に入れるのは結構大変。そんなに尿が大切なの？」と聞かれ、私は教科書通りの返答をしました。何気ない場面でしたが、何か腑に落ちないもやもやした気持ちが晴れず、なぜなのかを考えたとき、その人が結構大変と思っている気持ちに寄り添わず、大変さを理解していない、理解しようとしなかった自分に気づきました。もっと、化学療法について専門的に学び、治療を受ける患者さんの全体像を理解したいと思い緩和ケア認定看護師の資格取得を目指しました。



### 訪問看護師になったきっかけをお聞かせください。

私は、広島市民病院で、がん治療の意思決定支援、がん化学療法や放射線療法を受けられる患者さんとご家族の看護と緩和ケアに携わってきました。そんな中、緩和ケア外来に通院してこられる患者さんに、HPN（在宅中心静脈栄養法）管理と在宅PCA（自己調節鎮痛法）による痛みの治療をすることになりました。その時、「病院でしか知ることのできない患者さんご家族の姿を、自宅という生活の場で支援することの大切さ」を実感し、思い切って『在宅医療・訪問看護』で緩和ケア認定看護師の資格を生かしてみたいと思い、訪問看護師になりました。

### 訪問看護のなかで、資格はどのように生かされていますか。

一番の強みは、がん疼痛緩和治療とその他の症状マネジメントとケア、看取りのケアだと思っています。医療処置（ポート管理、PCA管理、医療用麻薬、褥瘡、ストマ、腎瘻、胃瘻、尿管皮膚瘻、胃管、点滴、腹水や胸腔穿刺など）が比較的多いので、在宅で可能な資源を活用しつつ、常に利用者さんや家族が「どうしたいか、どのようにしたいか、訪問看護師に対するニーズは何か」を確認しながら実践しています。私個人が最も力を注いでいるのは「グリーフケアや意思決定支援」です。特に症状が深刻になっていく中、避けられない死別に対するつらい気持ちを支援していくことはとても責任がある仕事だと実感しています。つらい現状を見通しつつ、日々の中で起こる「嬉しいこと、よかったこと、感動したこと、笑顔になれたこと」を語り合いながら、少しでも長く、より良い時間が過ごせるように関わることが『緩和ケア認定看護師としての資格を生かす』ということに繋がっているのではないかと思います。



### 最後に、今後の抱負や、訪問看護師を目指す方へのアドバイスををお願いします。

令和4年度の診療報酬改定で『緩和ケアにかかる専門研修を受けた看護師が悪性腫瘍の鎮痛方法、化学療法を行っている患者に計画的な管理を行った場合に、専門管理加算を算定』できるようになりました。専門性の高い看護師の評価を充実し、訪問看護の質の向上を目指す目的だと理解しています。看護師独自の専門性を、病院や施設だけでなく訪問看護の場でも評価されてきていることはとても身の引き締まる思いであるとともに嬉しいことだと実感しています。

今後も専門知識をアップデートしながら実践に生かしていきたいと思っています。そして大事なことは、資格をとったことではなく、資格をいかしつつ看護の現場を通して自分が成長していくことだと考えています。私は事業所の運営にもかかわっていますが、「病をもちながらもその人らしく生きられるよう支えたい」と思っている職員や周囲の方々に信頼してもらえるよう努力していきたいと考えています。

これから「訪問看護をやってみたい」「認定・専門看護師の資格を取ってみたい」と考えている皆さん、どの現場でも看護という仕事は魅力にあふれています。訪問看護は一人で訪問することの大変さはありますが、四季の移り変わりを肌で感じながらの訪問、たくさんの方との出会い、その人らしさを支えることができ、看護の専門性も発揮できる場です。

もし「チャレンジしてみたい!」と思われていれば、是非挑戦してください。そして一緒に働けると嬉しいです。当事業所では見学実習も行っていきますので興味のある方はぜひお越しください。

